

遺伝子組換え(バイオ)食品に対する 消費者の意識調査

～2015年度調査結果～

2016年4月



バイオテクノロジー情報普及会

COUNCIL FOR BIOTECHNOLOGY INFORMATION JAPAN

遺伝子組換え技術は、暮らしに役立つ可能性を育てています。

はじめに

日本でも「遺伝子組換え作物（バイオテク作物）」を原料とする食品は、私たちの暮らしに深く浸透しています。しかしながら、多くの方は、そのような実態をご存知なく、また、それらの食品に対し漠然とした不安感を持たれ、依然として受容意識は低いといわれています。

バイオテク情報普及会では、長年、バイオテクノロジーの重要性をご理解いただくための広報活動の一環として、バイオテク作物を原料とする食品（遺伝子組換え食品：バイオテク食品）に関する情報提供など、消費者の受容意識の向上を目的とした様々な活動に取り組んでまいりました。

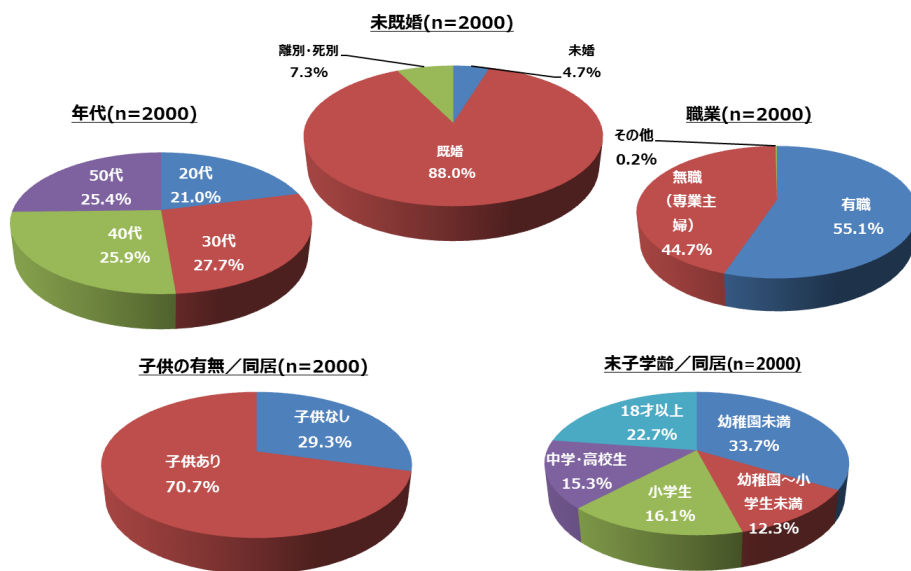
このような背景のもと、当会では「遺伝子組換え作物（バイオテク作物）」を原料とする食品に対する消費者意識を把握するための調査を、過去より実施してまいりましたが、この程、昨年（2015年）に行いました調査の結果が纏まりましたので、ここに、ご紹介申し上げます。

調査の概要

<アンケート調査（定量調査）>

- 調査エリア：全国
- 調査対象者：20～50代女性
(既婚女性中心)
- 調査規模：2,000サンプル
- 調査方法：Web調査
- 調査時期：2015年10月下旬

【定量調査：対象者の基本プロフィール】



<インタビュー調査（定性調査）>

- 調査エリア：首都圏
- 調査対象者：20～50代 既婚女性
- 調査規模：15名（5名×3グループ）
- 調査方法：グループインタビュー調査
- 調査時期：2015年11月上旬

【グループ設計】

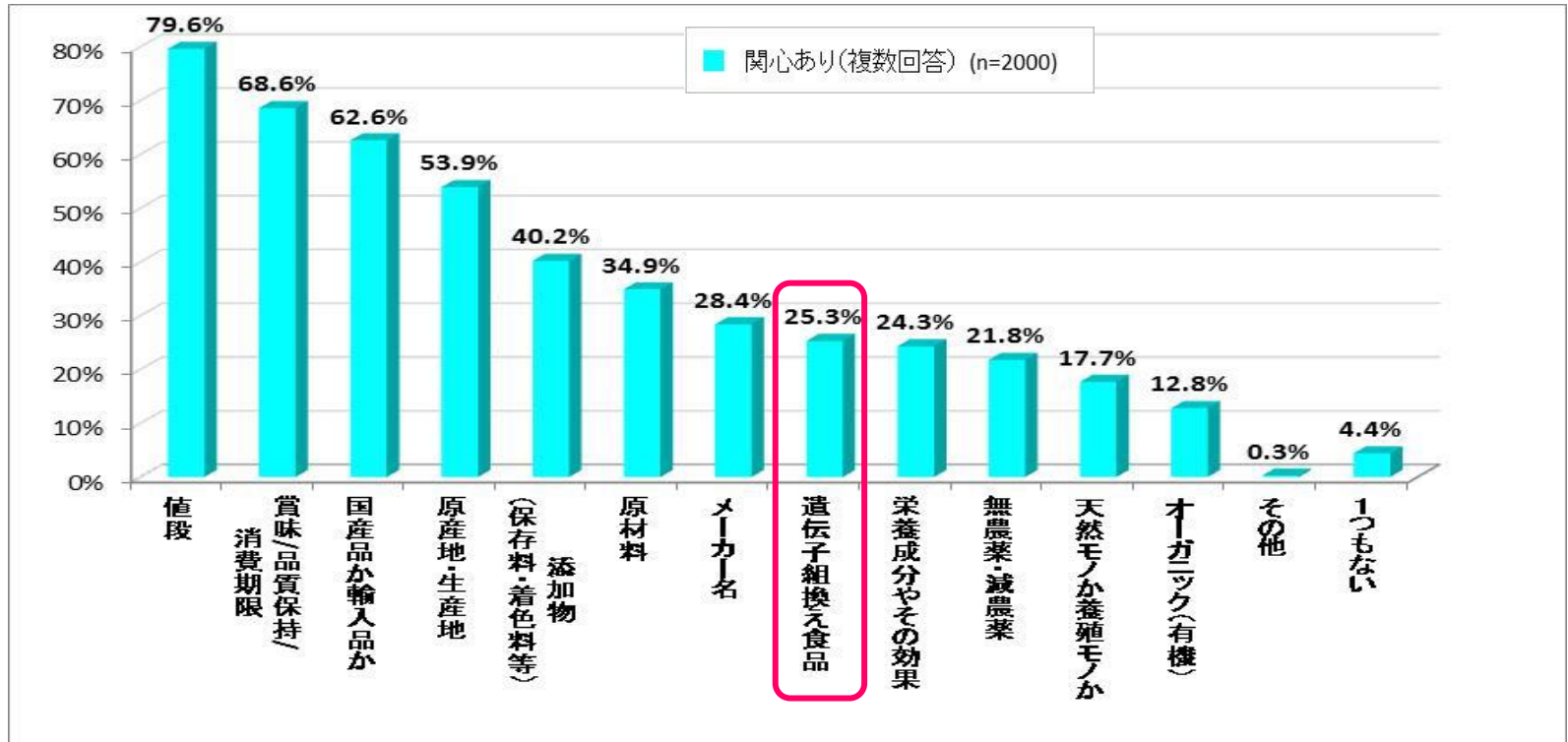
グループ1	20～30代主婦(小学生以下の子供あり)
グループ2	30～40代主婦(中学生以上の子供あり)
グループ3	45才以上主婦(同居の子供あり *学齢問わず)

調査結果の概要

まとめ

- 消費者が食品を購入する際の遺伝子組換え（バイテク）食品に対する関心は、食生活の中では相対的に低く、2004年度の調査結果に照らしてみても低下傾向である
- 「商品への不使用表示」、「遺伝子組換え食品という言葉」に対する“よくわからないものへの漠然とした”不安、および関連情報の不足によって、遺伝子組換え食品についての「どちらかといえば怖い・悪い」「怖い・悪い」イメージが形成されている
- 行政機関等からの事実に基づく適切な情報提供に対する消費者のニーズは高い

食料品を購入する際の関心事項は？（複数回答）

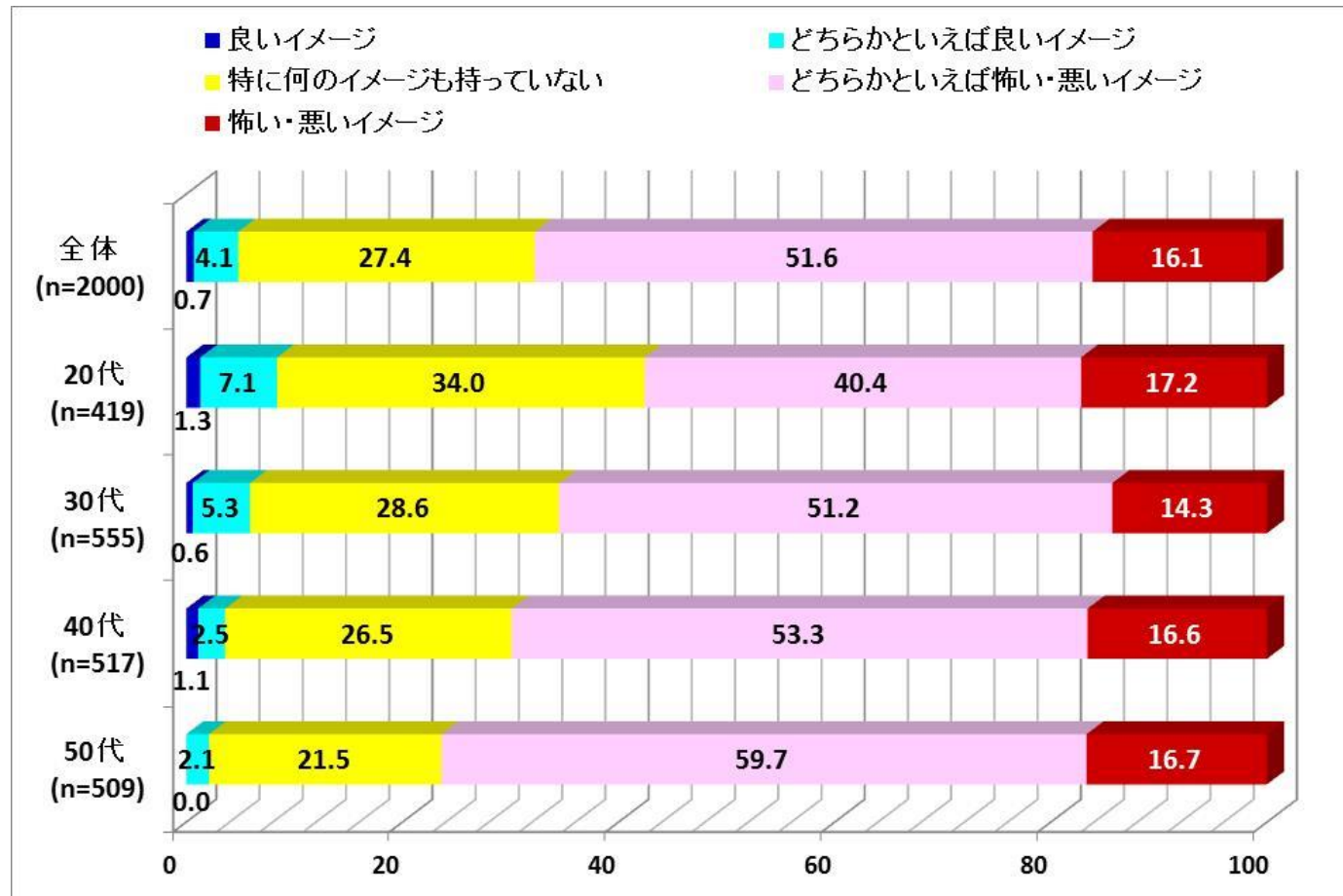


普段の食生活においては、遺伝子組換え食品への関心はそれほど高くはない

インタビュー調査 で聞いた世代別の主な関心事項

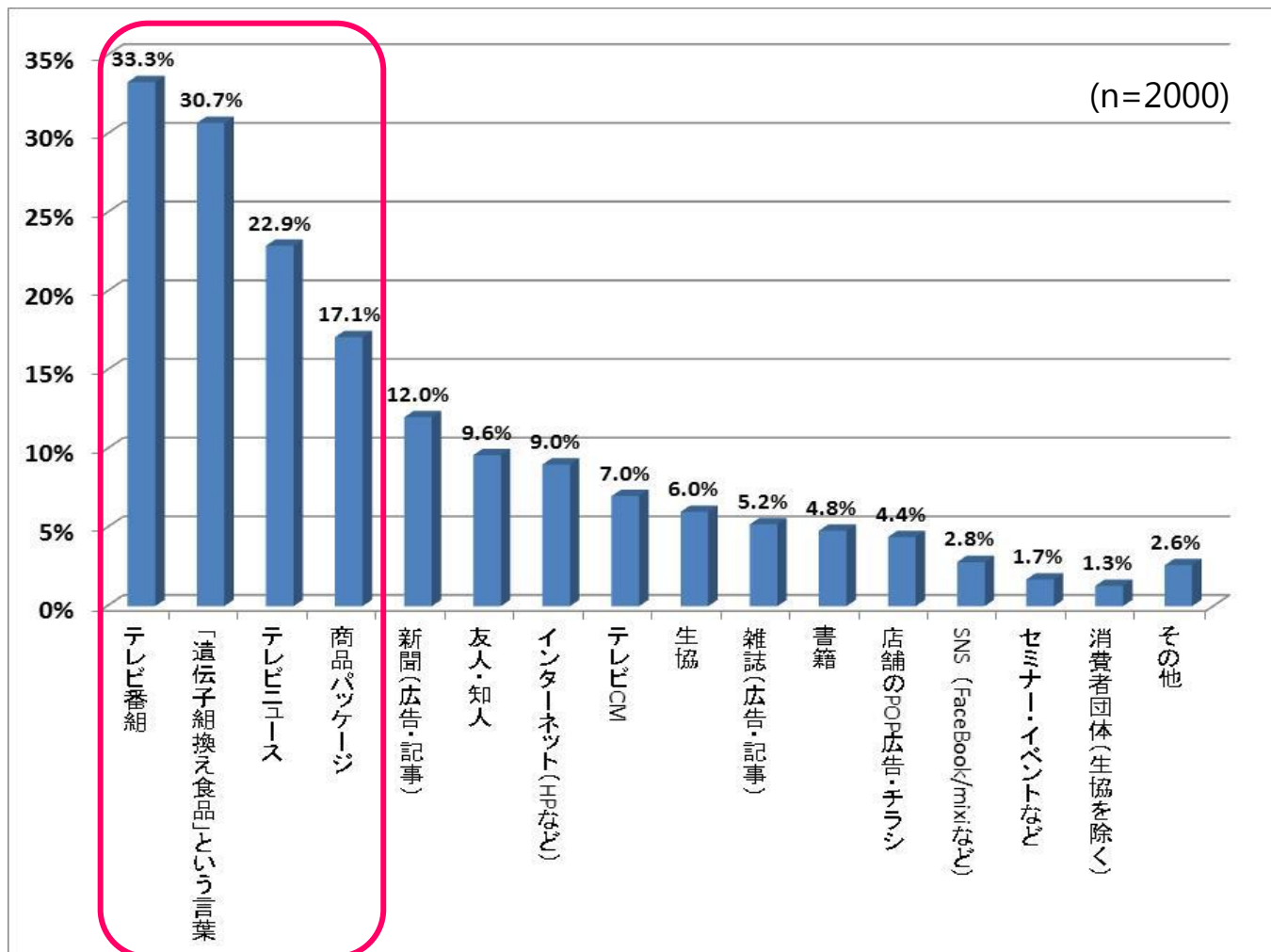
- 子育て世代(30代で子供は小学生以下)： 異物混入や偽装、加工品の添加物など食の安全に関わる事柄
- 食べ盛り子育て世代(30-40代で子供は中高校生)： 食事作り(メニュー構成や子供の好み・要望)
- 子育て卒業世代(45才以上で、子供は既に成人近い)： 健康志向(話題の食材)

現在「遺伝子組換え食品」について、どのようなイメージを持っていますか？



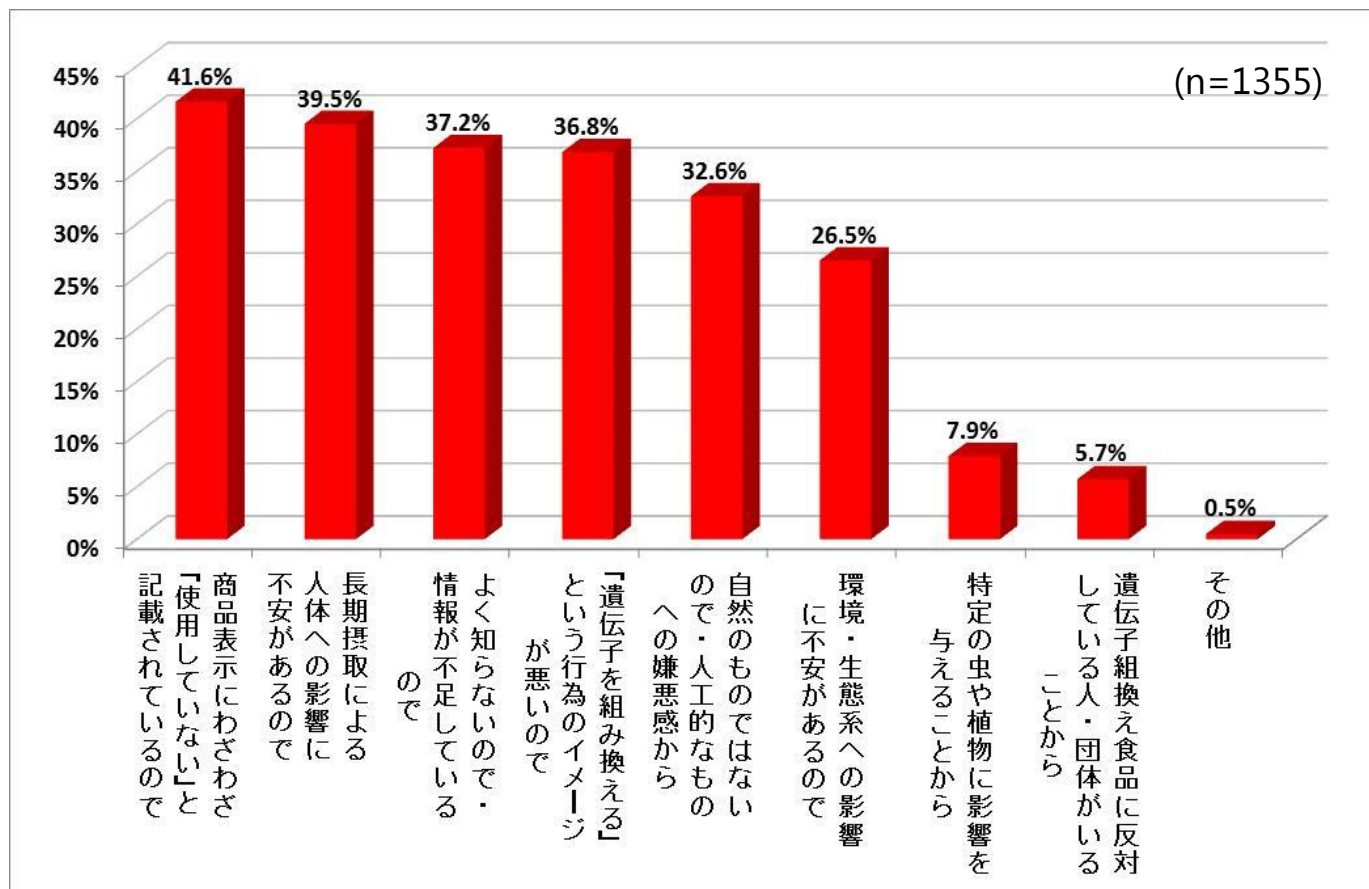
まだ「どちらかといえば怖い・悪い」「怖い・悪い」イメージを持つ人が多いものの、20代では約40%の人が「どちらかといえば良いイメージ」「特に何のイメージも持っていない」と回答

そのようなイメージをもつ要因になった情報源は？



テレビ番組やニュース、遺伝子組換えという言葉、商品パッケージ(遺伝子組換え不使用表示)が主要な情報源

ネガティブ（怖い・悪い）イメージを持つようになった理由は？（複数回答）

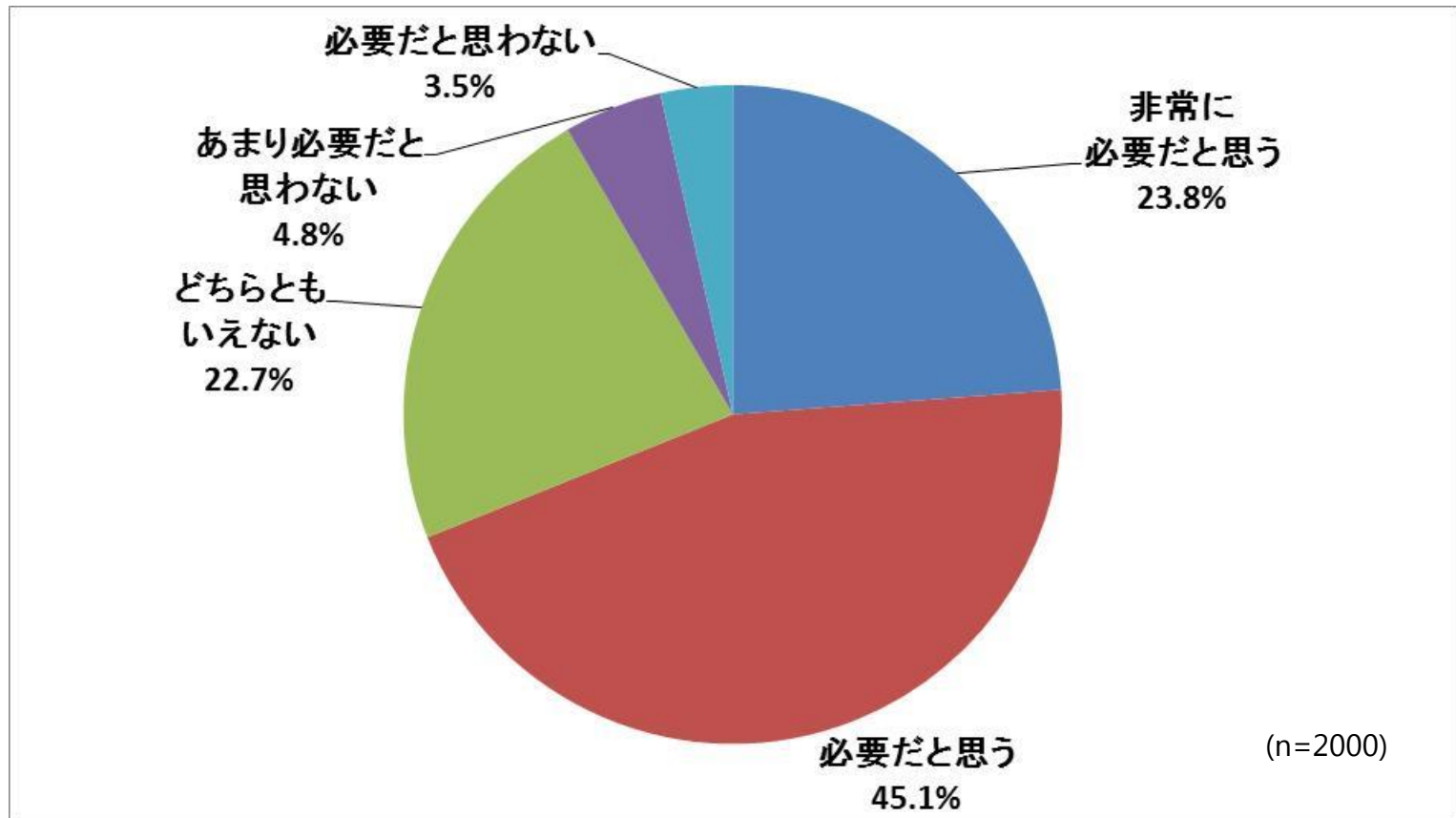


主な理由は、“商品への不使用表示”と“人体への影響”に対する不安、遺伝子組換え食品についての“情報不足”

インタビュー調査で具体的なコメント

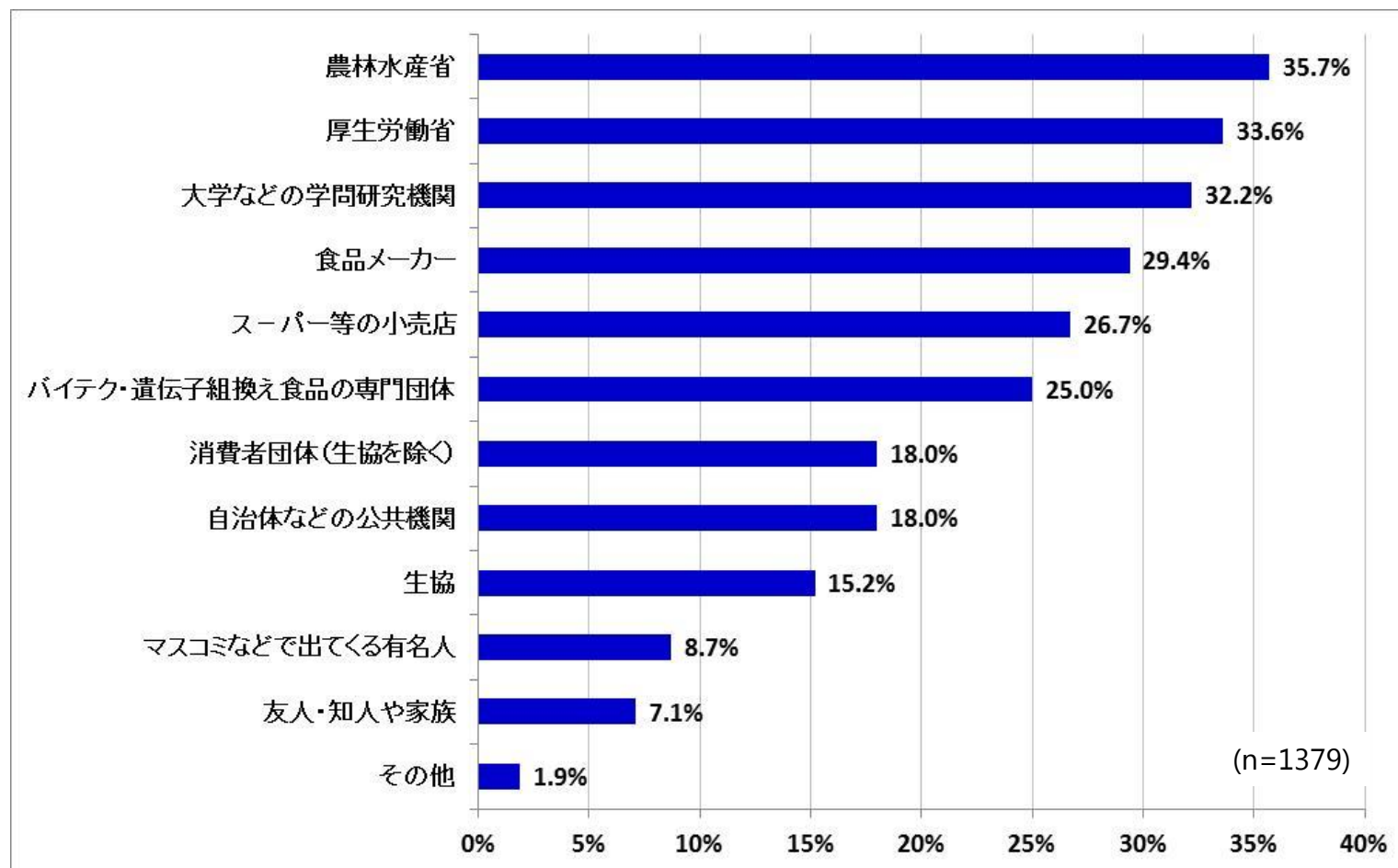
- **ネガティブ:** 「自然ではないもの」、「クローンのようなもの」、「添加物と一緒に、蓄積したら何か影響があるのではないか」、「遺伝子と言われると、私の遺伝子にも影響があるのではないか」など

「遺伝子組換え食品」についての情報は、今後も必要だと思うか？



「非常に必要だと思う」 + 「必要だと思う」の合計 = 68.9%

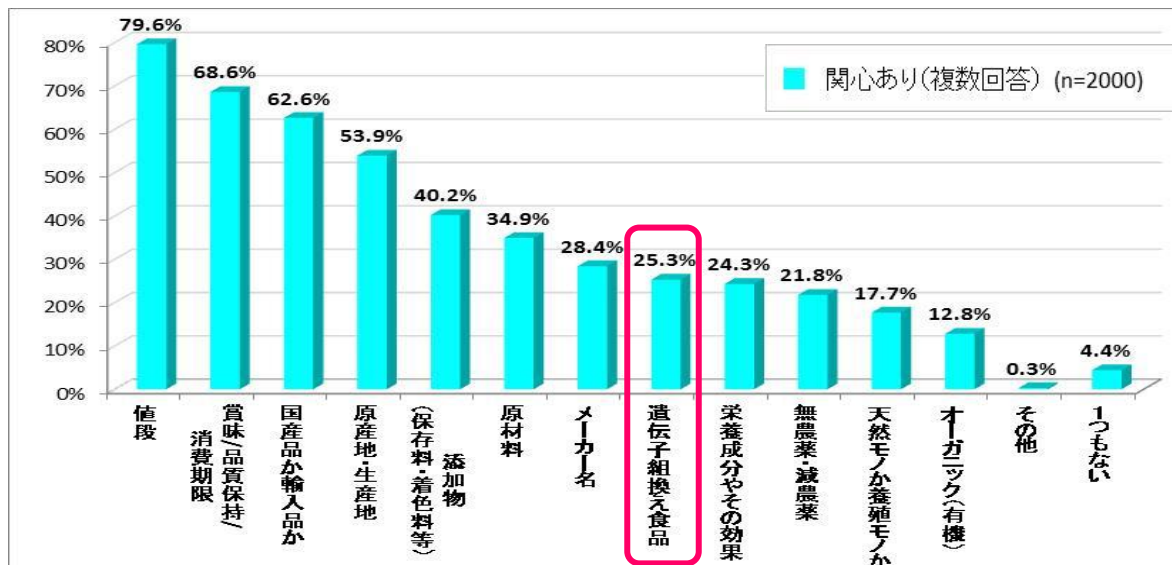
「遺伝子組換え食品」の情報に関して信頼性の高い情報発信元は？ (複数回答)



信頼性の高い発信元は、行政機関と学問研究機関

<詳細版>

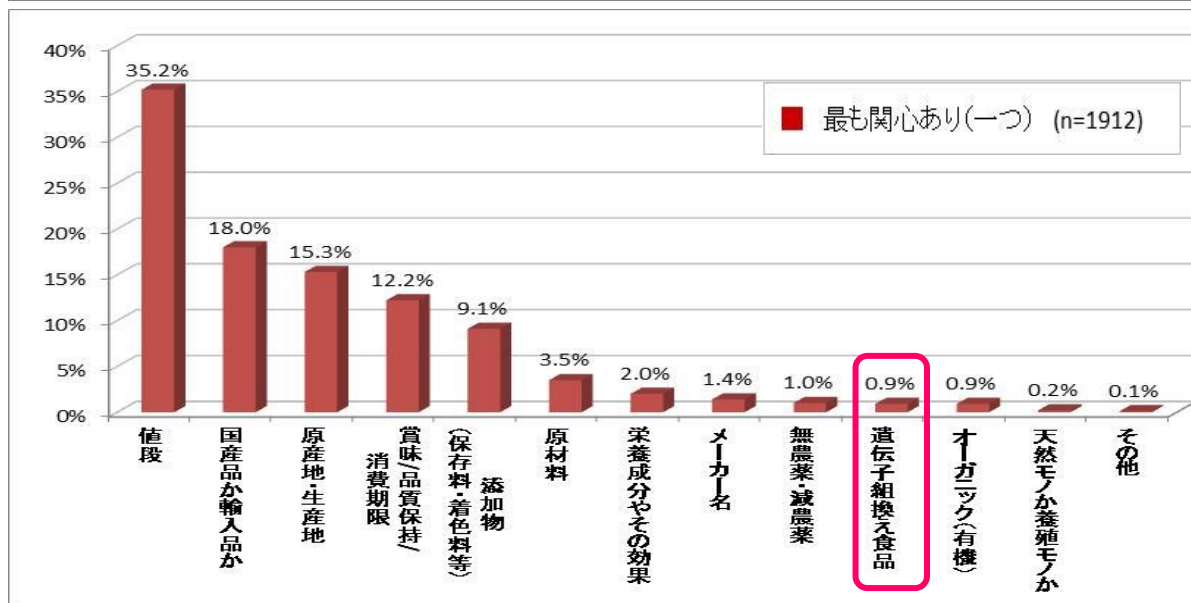
1.食料品を購入する際の関心事項は？



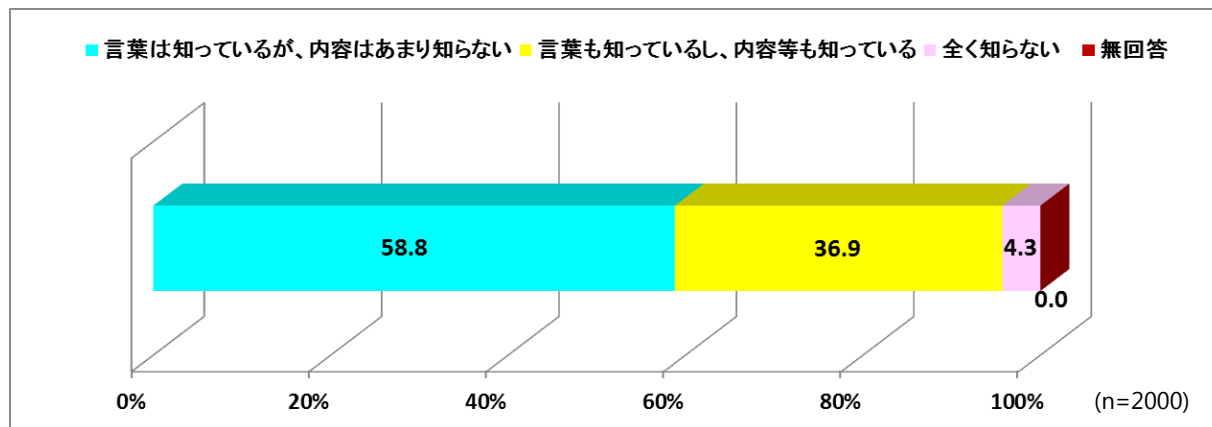
普段の食生活においては、
遺伝子組換え食品への関心
はそれほど高くはない。
また、遺伝子組換え食品を
最も関心ありに選んだ人は
0.9% (第10位) であった

インタビュー調査で聞いた
世代別の主な関心事項

- 子育て世代
(30代で子供は小学生以下)：
異物混入や偽装、加工品の添加物
など食の安全に関わる事柄
- 食べ盛り子育て世代
(30-40代で子供は中高校生)：
食事作り(メニュー構成や
子供の好み・要望)
- 子育て卒業世代
(45才以上で、子供は既に成人近い)：
健康志向(話題の食材)

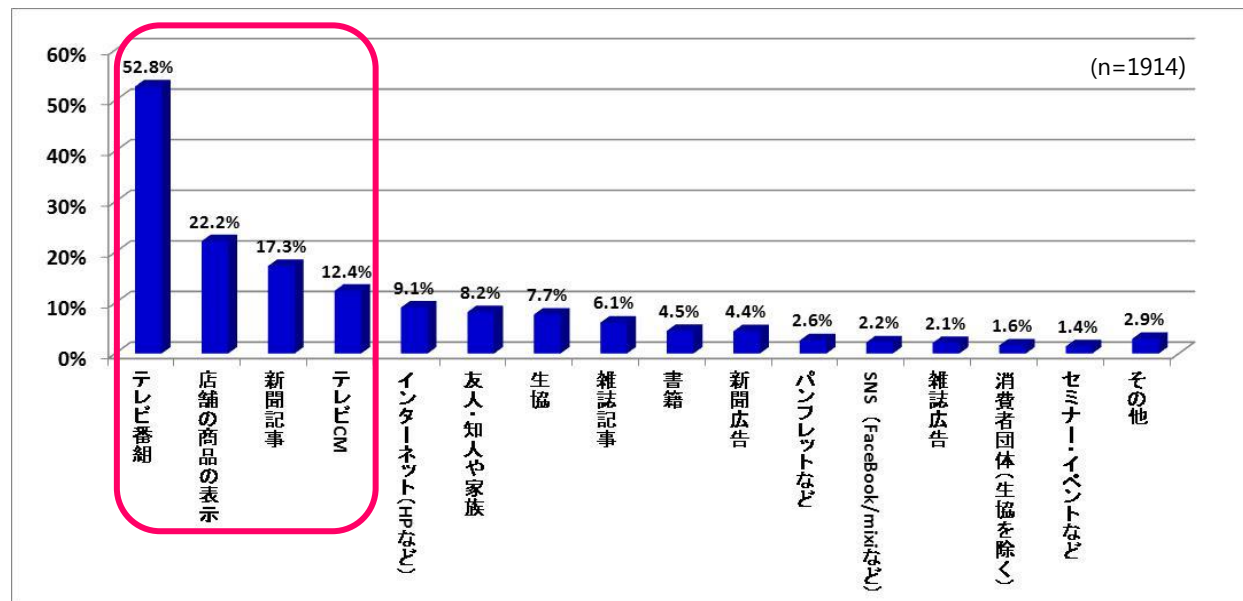


2.遺伝子組換え食品を知っていますか？



言葉は知っているが内容はあまり知らない人が約6割

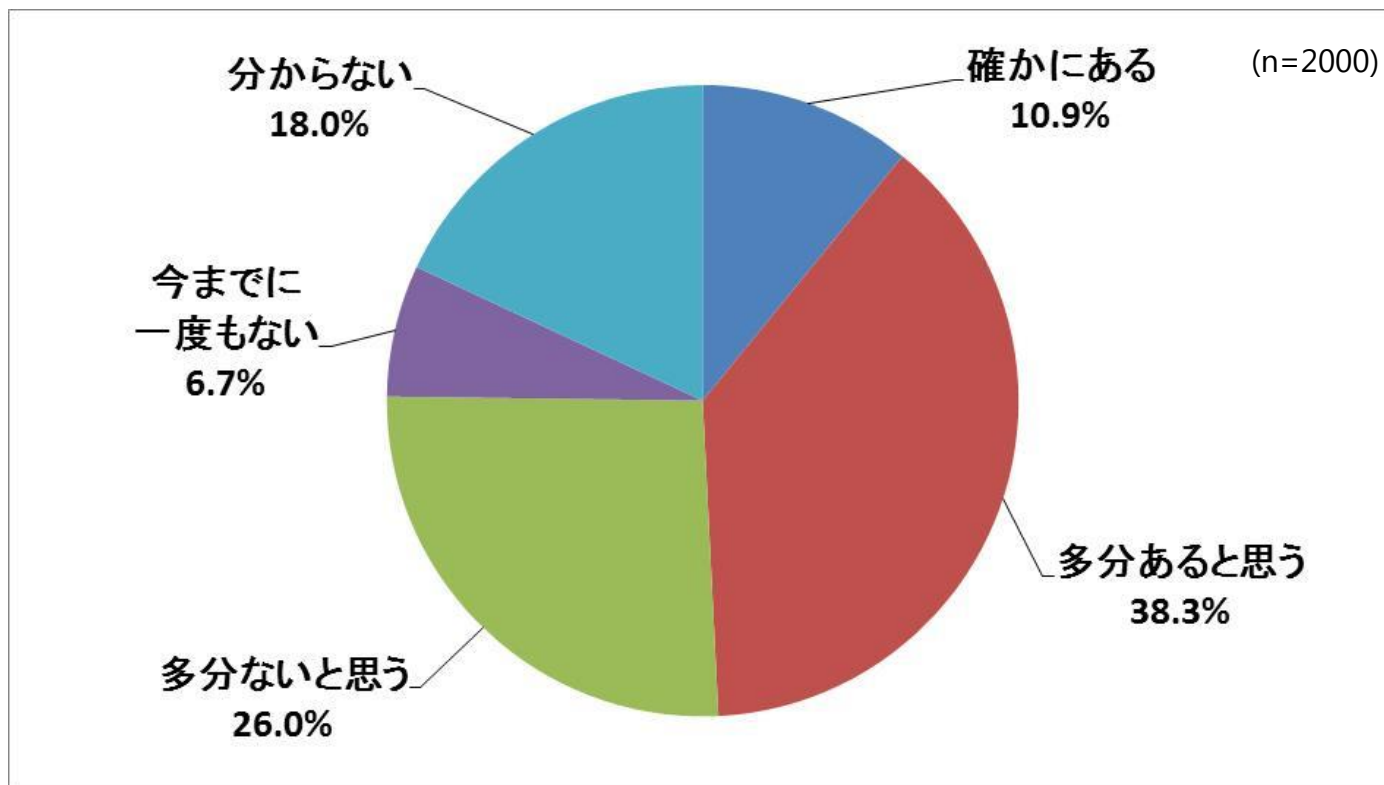
3.遺伝子組換え食品を知ったきっかけは？



マスコミ情報(テレビ・新聞)と商品表示が主な認知媒体

インタビュー調査では食品表示(不使用表示)で知った人が圧倒的多数

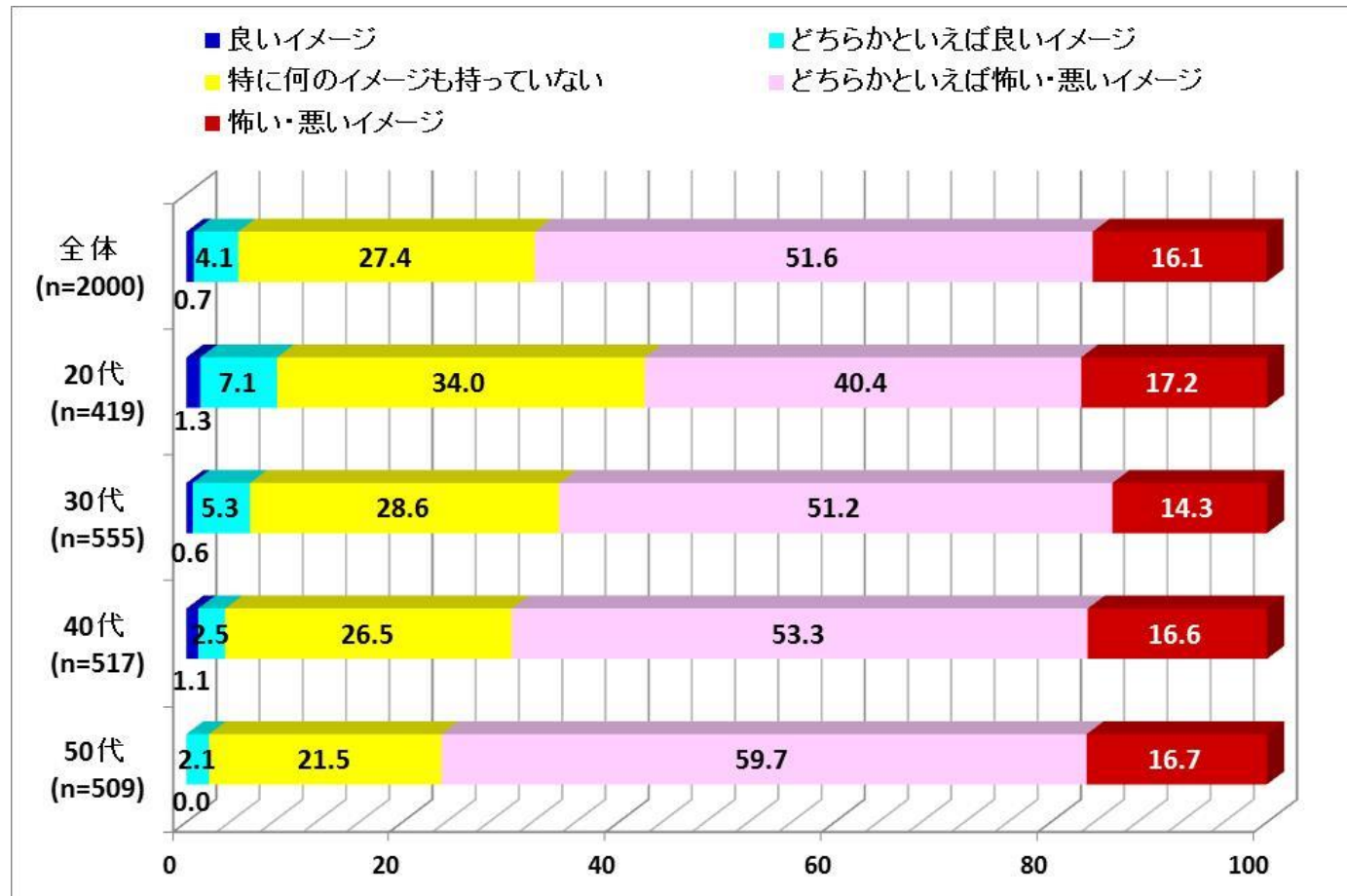
4.遺伝子組換え食品や原料の含まれる商品を購入したり、食べたことがありますか？



約半数の方が利用経験が“ある”と認識

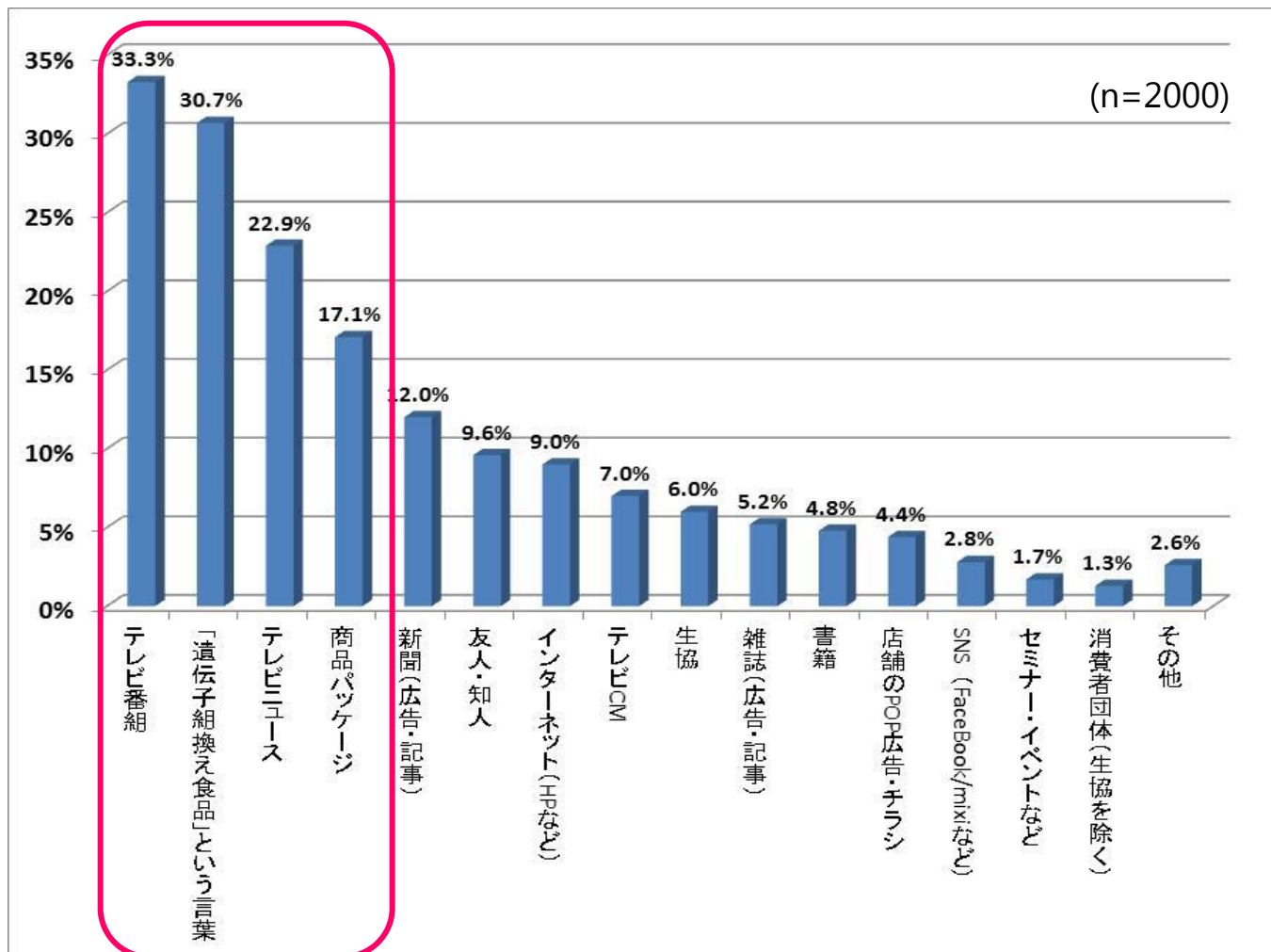
インタビュー調査では不使用表示がない商品は遺伝子組換えかも知れないとイメージするが、気にしていない(特に若い年代)、表示をチェックしていない時もあるとの声が多数であった。

5.現在「遺伝子組換え食品」について、どのようなイメージを持っていますか？



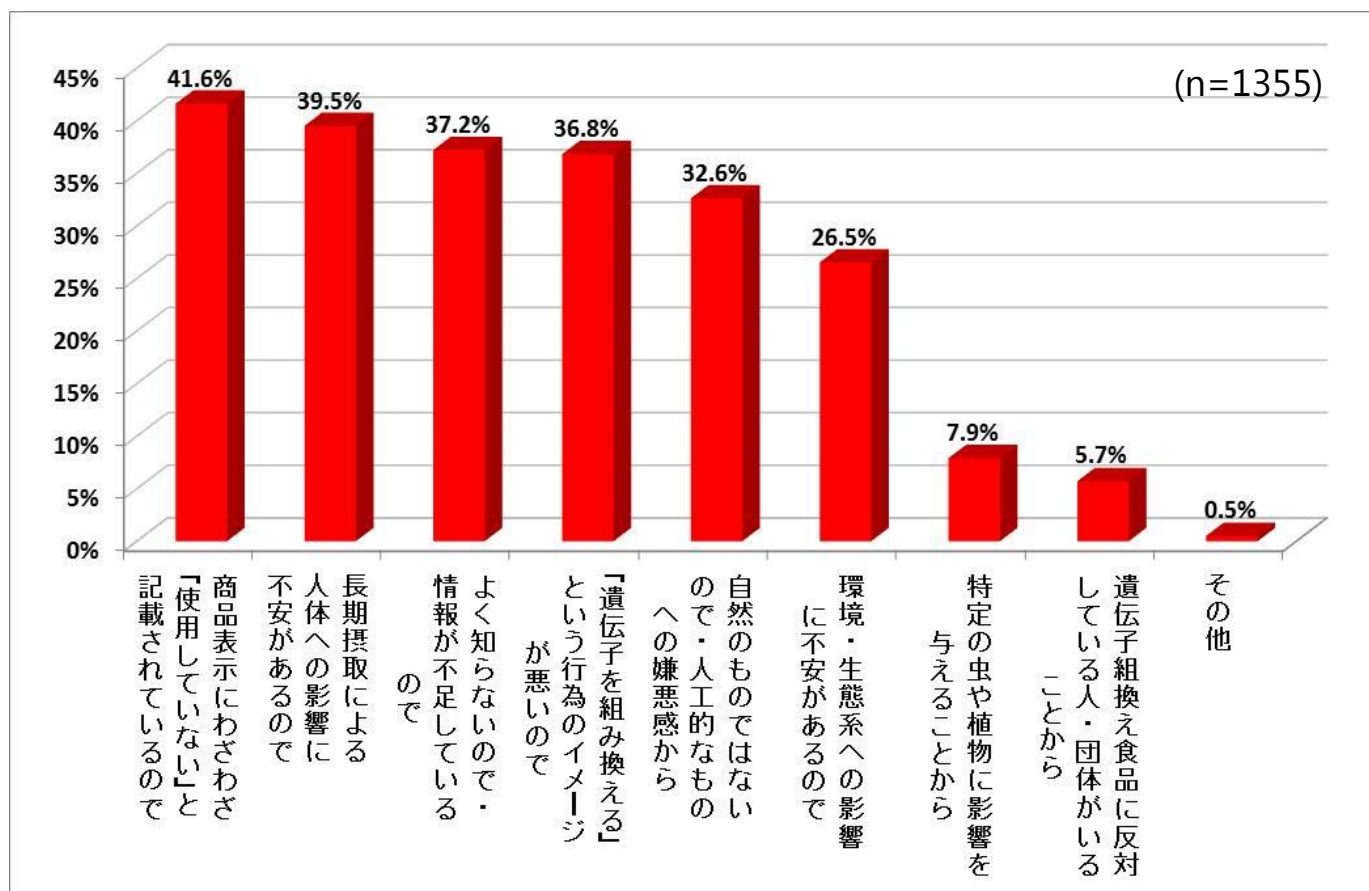
まだ「どちらかといえば怖い・悪い」「怖い・悪い」イメージを持つ人が多いものの、20代では約40%の人が「どちらかといえば良いイメージ」「特に何のイメージも持っていない」と回答

6.そのようなイメージをもつ要因になった情報源は？



テレビ番組やニュース、遺伝子組換えという言葉、商品パッケージ(遺伝子組換え不使用表示)が主要な情報源

7-1.ネガティブ（怖い・悪い）イメージを持つようになった理由は？（複数回答）

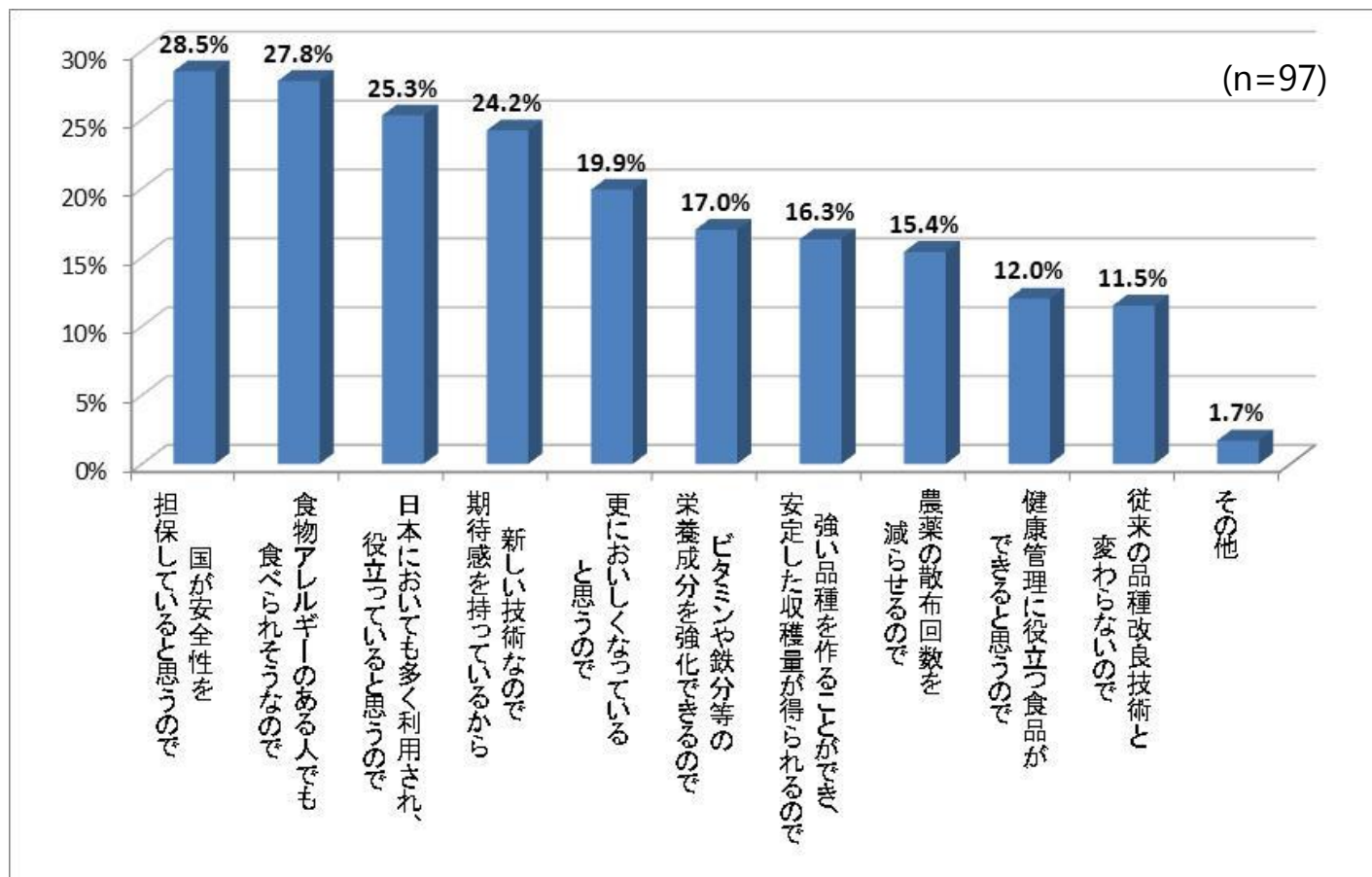


主な理由は、“商品への不使用表示”と“人体への影響”に対する不安、遺伝子組換え食品についての“情報不足”

インタビュー調査で具体的なコメント

- **ネガティブ:** 「自然ではないもの」、「クローンのようなもの」、「添加物と一緒に、蓄積したら何か影響があるのではないか」、「遺伝子と言われると、私の遺伝子にも影響があるのではないか」など

7-2.ポジティブ（良い）イメージを持つようになった理由は？（複数回答）

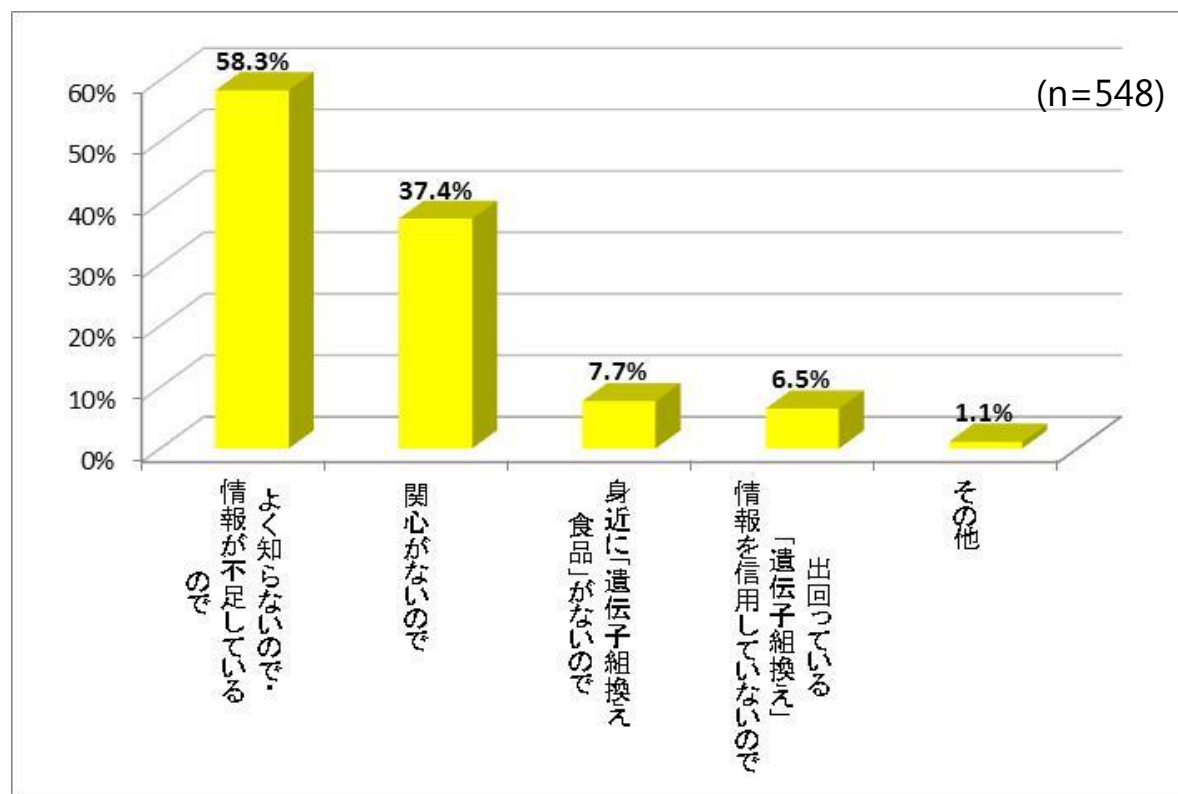


主な理由は、“国が安全性を担保していると思うので”

インタビュー調査で具体的なコメント

- 「ハイブリッド（新種）な感じ」など

7-3.特に何のイメージも持っていない理由は？（複数回答）

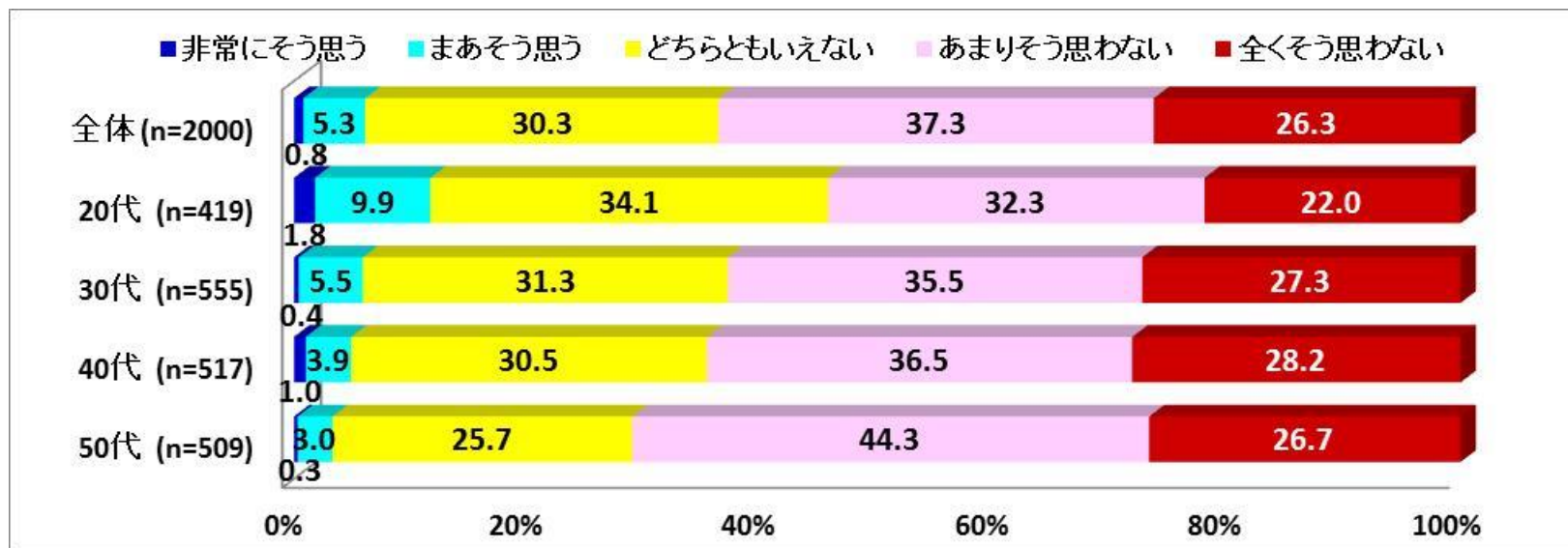


主な理由は、遺伝子組換え食品についての“情報不足”

インタビュー調査で具体的なコメント

- 「詳しい知識はないので、害はないのかなという程度の感覚」、
「駄目なモノならもっとマスコミに露出するはずなので、そんなに気にしなくてもいいのかなと思う」など

8. 遺伝子組換え食品がスーパー等で販売されていたら買って利用してみたいか？

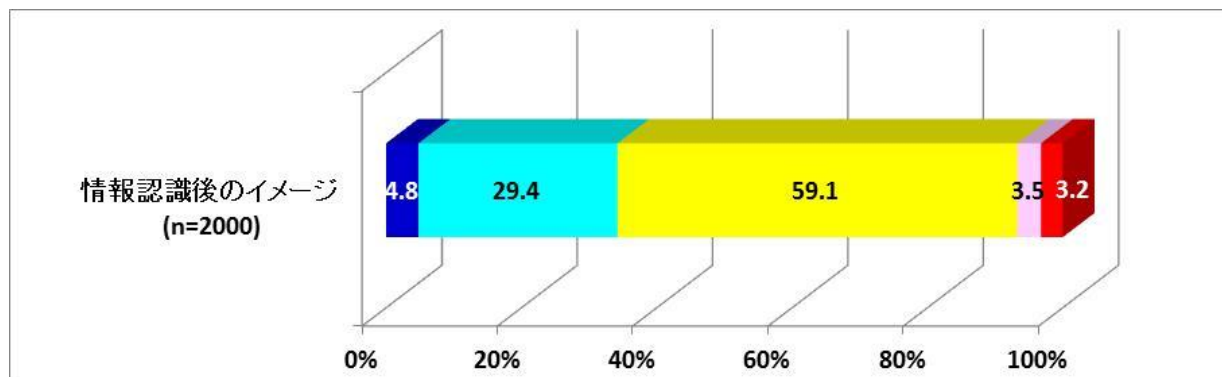


全体的に「全くそう思わない」、「あまりそう思わない」という人の割合が多いものの、若い年代になるほど「まあそう思う」「どちらともいえない」という人の割合が増え、20代では、半数近くに

アンケート調査（定量調査）では、遺伝子組換え作物や食品の情報を提示して、更に質問を進めました。



9. 遺伝子組換え食品の情報を知って「遺伝子組換え食品」に対するイメージや考えは変化しましたか？



<情報認識後>

- 以前に比べ良くなった
- 以前に比べ少し良くなった
- どちらともいえない
- 以前より少し悪くなった
- 以前より悪くなった

情報認識後のイメージ
は3割以上向上した

インタビュー調査での具体的なコメント

- **ポジティブ**：「品種改良されたものなら悪いイメージはない」、「サプリメントなど（病気の予防や治療）メリットのある食品なら買ってみたい」、「悪いモノではないから表示可（5%未満なら不使用の表示が可）」になっていると思う」
- **ネガティブ/どちらともいえない**：「安全性の国際基準といわれても良く分からない」、「完全には信用出来ない／長期的なことはまだわからない」、「胃の弱い人は消化・排出されないのでは？」、「消費者メリットを感じる商品は、まだ開発中で市場には出ていない」

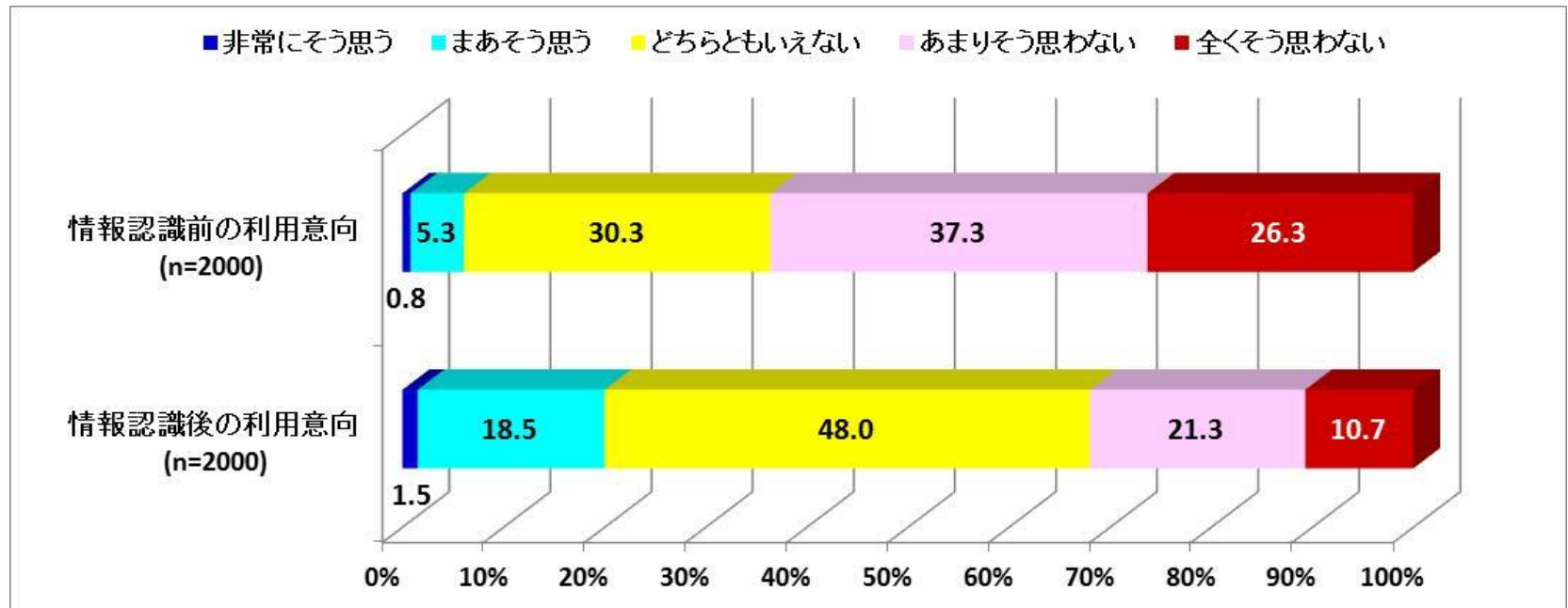
「安全性」に関する情報はイメージ向上にインパクトあり

遺伝子組換え食品のイメージ向上につながった情報（上位10項目）

	バイテク作物・食品に関する情報の内、 イメージ向上に効果のあった上位10項目	＜情報認識後＞ ポジティブに変化 した割合の合計 (n=684)
1位	これまで安全に食べてきた現在の作物・食品を基準に、安全性が評価（同じくらい安全）されている	41.6
2位	生活習慣病の予防や治療に効果のある食品の開発が進められ、「スギ花粉症に効果のある米」では、医薬品としての実用化に向け、臨床試験が進められている	36.0
3位	各分野の専門家が参画する、国際基準に基づく国の審査が義務付けられていて、これらの審査において安全性が確認され、政府に認可されたものだけが市場に流通する	35.2
4位	(害虫抵抗性作物は) 人間など哺乳類の体内に入っても、胃が酸性であることから、無害で消化・排出される	30.6
5位	悪玉コレステロールを下げる働きをするオレイン酸を多く含む大豆	30.3
6位	ある生物が持つ遺伝子のうち、有益な部分だけを別の生物につけ加えたり、害のある遺伝子を取り除いたりできるようになった	28.9
7位	ビタミンA 不足を補うための「ビタミンAの素となるβカロテンを多く含む米」	28.0
8位	遺伝子組換え食品とは、遺伝子組換え技術を活用して「品種改良」した農作物、及びそれを原料とした加工食品のこと	26.7
9位	植物を使って、土壌を汚染する重金属などを浄化する研究も進められていて、環境保護や食糧問題の解決など人々の健康な暮らしに役立てることを目指し、消費者にとってメリットある技術の研究が日々進められている	24.0
10位	(害虫に効果のあるたんぱく質の) 遺伝子を農作物に導入することによって、目的とした害虫から受ける被害がなくなった	19.5
10位	健康問題を解決する手段として「遺伝子組換え農作物」の開発が進んでいる	19.5

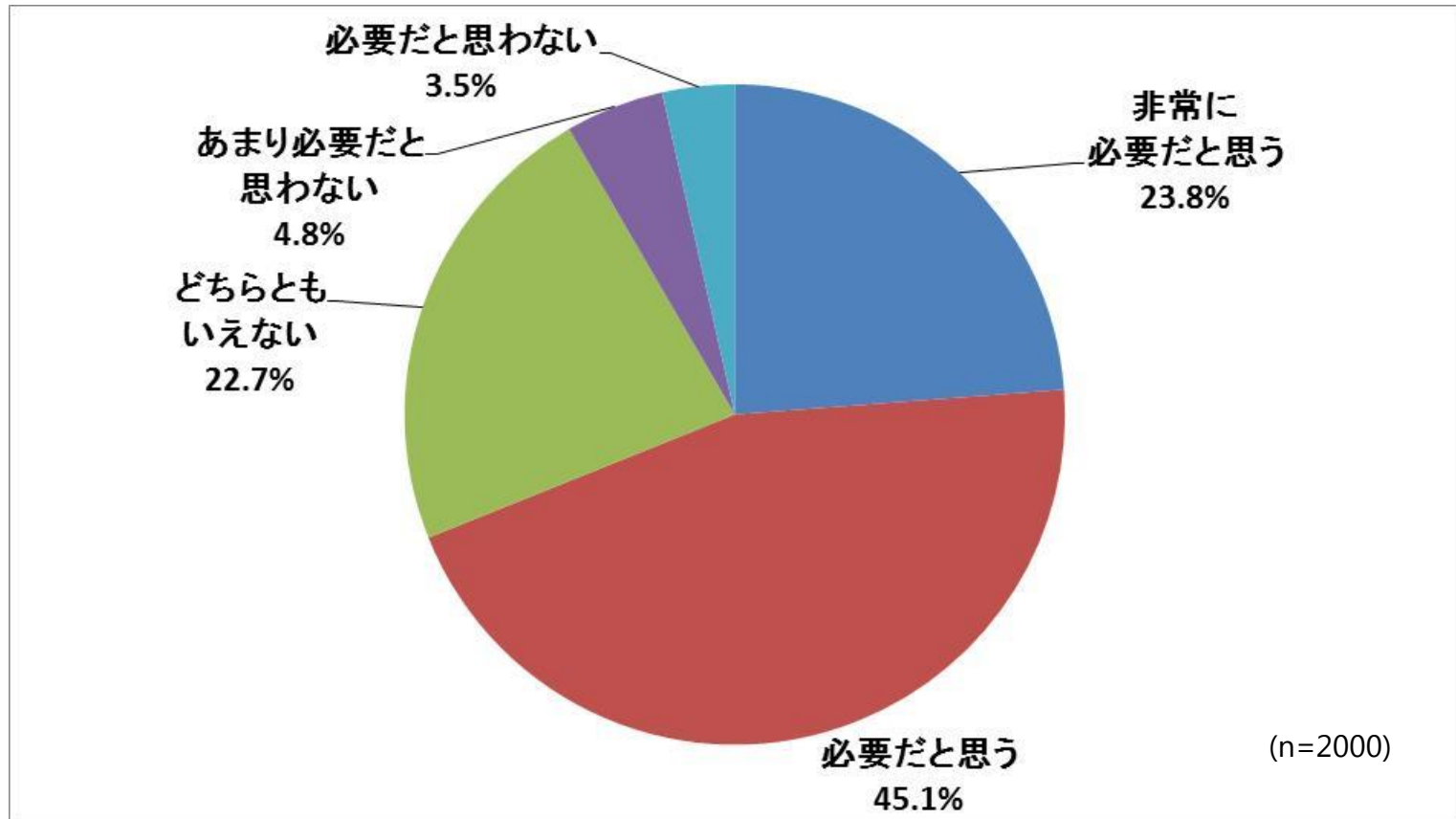
※文字色はそれぞれ、青：安全性、緑：遺伝子組換え技術の説明、橙：消費者メリットに関する情報であることを示している。

10. (情報認識後)遺伝子組換え食品食品がスーパー等で販売されていたら買って利用してみたいと思うか？



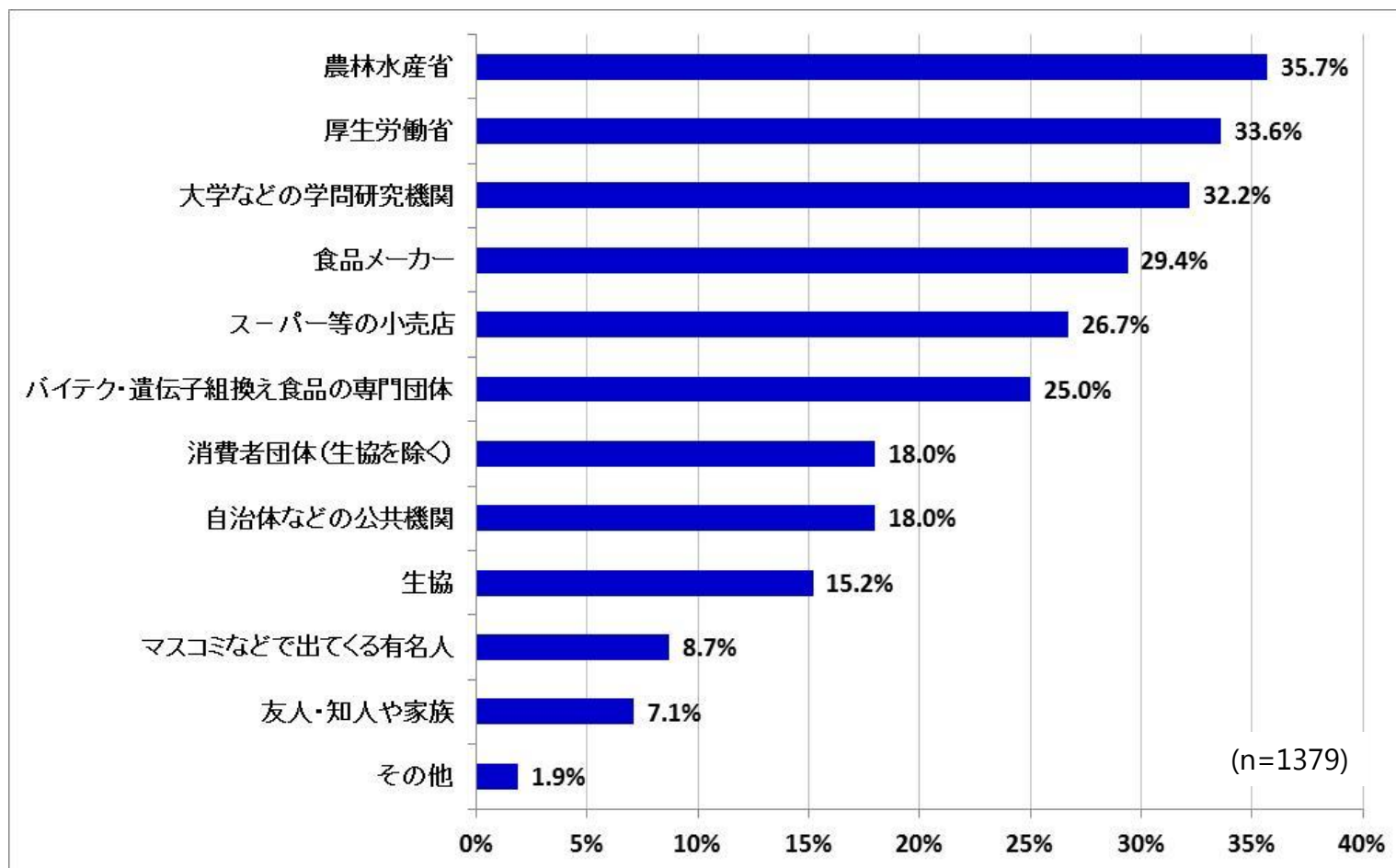
情報認識後、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した人の割合が全体の3割まで減少

11. 「遺伝子組換え食品」についての情報は、今後も必要だと思うか？



「非常に必要だと思う」 + 「必要だと思う」の合計 = 68.9%

12. 「遺伝子組換え食品」の情報に関して信頼性の高い情報発信元は？ (複数回答)



信頼性の高い発信元は、行政機関と学問研究機関